

平成 23 年度事業報告書

(平成 23 年 3 月 1 日～平成 24 年 2 月 29 日)

会員の移動状況書

会員種別	員 数		増減数
	本年度末 平成 24 年 2 月 29 日 現 在	昨年度末 平成 23 年 2 月 28 日 現 在	
名誉会員	60	54	6
永年会員	249	261	-12
正 会 員	4667	4598	69
学生会員	714	920	-206
維持会員	238	238	0
特別会員	605	628	-23
公益会員	436	448	-12
計	6969	7147	-178

平成23年度における特記事項

1) 公益社団法人への移行

平成 23 年 10 月 21 日に内閣府に対して公益社団法人への移行申請を行ったところ、平成 24 年 2 月 16 日付にて認可得て、その登記は平成 24 年 3 月 1 日付に終了した。

2) 創立 60 周年記念式典

日時 平成 23 年 9 月 15 日

場所 名古屋大学豊田講堂

参加者数 約 300 名

3) 東日本大震災への対応

震災対応ワーキンググループを組織して次の対応を行った。

- 現地調査 副会長を仙台～石巻間に派遣して行った。
- 講演会 日本分析化学会・日本地球化学会・日本放射化学会 共同講演会「放射能・放射線を正しく理解する～福島第一原子力発電所事故に関連して～」
日時 平成 23 年 7 月 9 日、会場 川崎市国際交流センター、参加者数 97 名
- 講演会 「放射性物質による土壌汚染とその除染活動および災害廃棄物の現状と課題」
日時 平成 23 年 9 月 16 日、会場 名古屋大学工学部 2 号館、参加者数 95 名
- 放射能標準物質の作成を行った。
- 被災地へ実験機器、器具を供与するための活動を行った。
- 被災地の会員への会費免除を行った。

4) 世界化学年への参加

世界化学年日本委員会に参画して、ICAS2011 並びに第 60 年会における講演会を協賛行事として実施した。

定款に定められた事項

①第 52 回通常総会 (定款第 31 条)

日時 平成 23 年 4 月 15 日

場所 五反田文化会館第一会議室 参加者数 120 名

2011 年度第 1 回臨時総会 (定款第 32 条)

日時 平成 23 年 10 月 18 日

場所 五反田文化会館第一会議室 参加者数 109 名

②会誌、研究報告及び資料の刊行 (定款第 5 条(1))

- 学会誌「ぶんせき」を下記のとおり発行した。

発行年月日 巻 号 発行部数

自 平成 23 年 3 月 5 日 2011 3 7300

至 平成 24 年 2 月 5 日 2012 2 7300

- 和文論文誌「分析化学」を下記のとおり発行した。

発行年月日 巻 号 発行部数

自 平成 23 年 3 月 5 日 59 3 2300

至 平成 24 年 2 月 5 日 60 2 2300

- 英文論文誌「Analytical Sciences」を下記のとおり発行した。

発行年月日 巻 号 発行部数

自 平成 23 年 3 月 10 日 27 3 800

至 平成 24 年 2 月 10 日 28 2 800

- 英文論文誌「X-ray Structure Analysis Online」を下記のとおり発行した。

発行年月日 巻 号 発行部数

自 平成 23 年 3 月 10 日 27 3 web における配信

至 平成 24 年 2 月 10 日 28 2

- メールマガジンを毎月 1 回発行した (配信数 4000)。

- 「改訂 6 版 分析化学便覧」を発行した。

- 「試料分析シリーズ」を発行した。

1) 試料分析講座「元素の分析」

2) 試料分析講座「鉄鋼分析」

3) 試料分析講座「創薬の分析化学」

4) 試料分析講座「食品分析」

5) 試料分析講座「脂質分析」

- 教育用 DVD 並びにビデオシリーズの頒布を行った。

- ビデオシリーズのうち 4 巻を DVD 化して頒布を行った。

③講演会、講習会及び研究会の開催 (定款第 5 条(2))

[研究発表会]

- ICAS2011 (International Congress on Analytical Sciences 2011)

日時 平成 23 年 5 月 22 日～平成 23 年 5 月 26 日

場所 京都国際会議場 参加者数 1045 名

- 第 60 年会

日時 平成 23 年 9 月 14 日～平成 23 年 9 月 16 日

場所 名古屋大学 参加者数 1335 名

- Separation Sciences 2011

日時 平成 23 年 9 月 6 日～平成 23 年 9 月 7 日

場所 幕張メッセ国際会議場 参加者数 100 名

[講習会]

- 第 9 回「分析化学における不確かさ研修プログラム」

日時 平成 23 年 3 月 10 日～平成 23 年 3 月 11 日

場所 日本電気計器検定所本社 参加者数 28 名

- 第 27 回分析化学基礎セミナー

日時 平成 23 年 6 月 28 日～平成 23 年 6 月 29 日

場所 エッサム神田多目的ホール 参加者数 66 名

- 第 10 回「分析化学における不確かさ研修プログラム」

日時 平成 23 年 7 月 7 日～平成 23 年 7 月 8 日

場所 日本電気計器検定所本社 参加者数 24 名

- 分析信頼性実務者レベル講習会「第 13 回金属分析技術セミナー」

日時 平成 23 年 7 月 21 日～平成 23 年 7 月 22 日

場所 弘済会館 参加者数 19 名

- 分析信頼性実務者レベル講習会「第 12 回ダイオキシン類分析技術セミナー」

日時 平成 23 年 10 月 27 日～平成 23 年 10 月 28 日

場所 弘済会館 参加者数 21 名

- 分析信頼性実務者レベル講習会「第 10 回セラミックス原料・鉱石類分析技術セミナー」

日時 平成 23 年 10 月 27 日

場所 日本分析化学会 参加者数 15 名

- 分析信頼性実務者レベル講習会「第 15 回水中の微量金属分析」

日時 平成 23 年 11 月 2 日、平成 24 年 1 月 27 日

場所 飯田橋レインボービル 参加者数 15 名

- 第 28 回分析化学基礎セミナー

日時 平成 23 年 11 月 8 日

場所 (株)日立ハイテクノロジーズ本社 参加者数 29 名

- 分析信頼性実務者レベル講習会「第 8 回プラスチック中

有害金属成分の化学分析技術セミナー（有害物質規制/RoHS 指令対応）

日時 平成 23 年 11 月 11 日

場所 明治大学駿河台キャンパス 参加者数 15 名

- 第 10 回「分析化学における不確かさ研修プログラム」

日時 平成 23 年 11 月 24 日～平成 23 年 11 月 25 日

場所 日本電気計器検定所本社 参加者数 11 名

- 第 29 回分析化学基礎セミナー

日時 平成 24 年 2 月 16 日

場所 飯田橋レインボービル 参加者数 21 名

④調査、研究及び建議（定款第 5 条(3)）

[JIS]

- ・(財)日本規格協会の委託に基づき、JIS K 0303「排ガス中のホルムアルデヒド分析方法」については改正原案を平成 23 年 2 月に(財)日本規格協会に提出していたが、経済産業省の審議を経て、平成 24 年 2 月 20 日に改正版が発行された。
- 分析化学用語に係る JIS K 0211（基礎部門）と JIS K 0214（クロマトグラフィー部門）の改正原案作成を平成 24 年 1 月に作成し、同 2 月に(財)日本規格協会に提出した。

[技能試験]

事業所を対象とした技能試験を次のとおり実施し、結果に基づく「技能試験成果報告書」を公刊した。

- ・ISO/IEC17043 に基づく技能試験「第 5 回トレーサビリティと不確かさ理解のための分析技能試験」 参加事業所数 38

日時 平成 23 年 3 月 31 日～

- ・ISO/IEC17043 に基づく技能試験「第 13 回ダイオキシン類分析（土壌）」 参加事業所数 88

日時 平成 23 年 7 月 8 日～

- ・ISO/IEC17043 に基づく技能試験「第 8 回食品成分の分析」 参加事業所数 40

日時 平成 23 年 10 月 31 日～

- ・ISO/IEC17043 に基づく技能試験「第 8 回プラスチック中有害金属成分の分析（有害物質規制/RoHS 指令対応）」 参加事業所数 86

日時 平成 23 年 12 月 22 日～

[標準物質]

これまで開発してきた各種標準物質の保管、管理並びに社会への供給活動を継続して実施した。また、放射能標準物質の作製を開始した。

[関係団体との協力]

- ・関連学術団体等が主催する研究会等に次のとおり協力した。

国際会議：平成 23 年 3 月 15 日 Japan Symposium（アトランタ）（共催）ほか 6 件

展示会：平成 23 年 4 月 15 日 SURTECH2011（協賛）ほか 1 件

討論会並びに講習会等：平成 23 年 5 月 27 日 Shikata Discussion（共催）ほか 105 件

- ・次の諸団体に参画し、種々の調査、建議に協力した。

日本学術会議

日本化学連合

化学関係学協会連合協議会

JABEE/化学分野 JABEE 委員会

化学情報協会

(財)化学技術戦略推進機構

グリーンサステイナブルケミストリーネットワーク

日本工学会

標準物質協議会

ASIANALYSIS 国際諮問委員会

Asian Analytical Chemistry Network

- ・次の団体に委員を派遣して各種規格の立案等に協力した。

(財)日本規格協会

(社)日本化学工業協会

(独)産総研計量標準管理センター

(社)日本試薬協会

(社)日本セラミックス協会

(社)日本環境測定分析協会

(財)日本適合性認定協会

(社)日本分析機器工業会

⑤研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第 5 条(4)）

- ・2011 年度学会賞を次のとおり授与した。

楠 文代君「バイオメディカル実分析を志向した電気化学分析法の開発」

廣川 健君「等速電気泳動の分離濃縮機構の解明と超高度感度キャピラリー電気泳動法への展開」

吉村 和久君「固相を用いた分析化学とその地球化学への応用」

- ・2011 年度学会功労賞を次のとおり授与した。

菊地 正君「金属中微量酸素分析法の開発に関する研究と学会への貢献」

田中 龍彦君「精密電量滴定法並びに高感度ストリッピングボルタンメトリーの開発と学会への貢献」

中村 俊夫君「機能界面の創成による非水溶液用イオンセンサーとバイオセンサーの開発応用及び学会への貢献」

- ・2011 年度技術功績賞を次のとおり授与した。

内原 博君「非分散型赤外線吸収分析による気体状化学成分の分析技術の開発と普及」

岡内 完治君「高度化を指向した簡易分析法の開発と実用分析への応用展開」

加藤 健次君「SI トレーサブルな標準ガスの開発と認証標準ガスの供給」

- ・2011 年度奨励賞を次のとおり授与した。

岸川 直哉君「蛍光・化学発光反応に基づく高選択的検出法の開発と生体分析への応用」

久保 拓也君「分子インプリント法を用いた親水性化合物に対する分析前処理剤の開発」

高貝 慶隆君「カスケード型高倍率濃縮分離システムの構築と分析化学的応用」

西 直哉君「イオン液体|水界面の構造解明および機能創成にむけた電気・分光分析化学的アプローチ」

西野 智昭君「分子探針を用いた走査型トンネル顕微鏡による単分子分析法の開発」

- ・2011 年度先端分析技術賞を次のとおり授与した。

JAIMA 機器開発賞

大島永康・鈴木良一・藤浪真紀各氏

「原子空孔三次元マップ計測のための陽電子

プローブマイクロアナライザーの開発」

東 昇・池羽田晶文・森澤勇介・尾崎幸洋各氏

「ATR 遠紫外分光装置の開発とその産業応用」

CERI 評価技術賞

津越 敬寿氏「発生気体分析のための新規スキーマインターフェイスの開発と脱離/熱分解ガスのソフトイオン化質量分析」

- ・2011 年度有功賞を次のとおり授与した（敬称略）。

宮本 守 石井 智章 阿部 正三 明地 重夫

山下 将人 作田 伸男 山岸 純子 山下 修一

山田 浩嗣 江崎 昭一 磯部 衛 鈴木 正晴

石田儀八郎 三浦 信幸 堀内 重雄 片岡 壽

石倉奈美江 下谷 隆雄 坂井 潤藏 林田 信弘

松尾 光弘 久保 隆俊 高橋 由和 真鍋 秀隆

小嶋 秀昭 村中 延道 大西 道彰 岡崎 正吾

田口 省三 佐藤 安 小池 正弘

- ・2010 年「分析化学」論文賞を次のとおり授与した。

論文題名『波長可変レーザー光源を用いる高吸光度域の原子吸光分析』

著者名：石田智治・秋吉孝則（JFE スチール研究所）

掲載ページ：「分析化学」第 59 巻第 10 号、911～915 ページ

- ・他機関による表彰及び研究助成に対して、会員を候補者として推薦した。

⑥その他前条の目的を達成するために必要な事業（定款第5条(5)）

[分析士認証制度]

分析士試験を次のとおり実施した。

液体クロマトグラフィー分析士2段試験（6月5日、(株)島津製作所東京支社）

液体クロマトグラフィー分析士初段試験（11月20日、同上）

LC/MS分析士初段試験（12月18日、同上）

[広報]

本会の活動を記者会見、展示、小冊子の発行ならびにホームページを通して広報した。

[若手交流会]

ICAS2011の若手企画（Analytical Chemistry “Session Table Mixer” for students and young scientists）を後援した。また、年会での若手ポスター賞の選考を行った。

[ICAS2011組織委員会]

実行委員会（第9回～第12回、京都）を開催し、会議の具体的内容等について検討・決定を行った。ICAS2011を実施した。国際諮問委員会（会期中開催）において、2016年の開催地を中国と決め、開催の依頼をした。

[AACN]

Asian Analytical Chemistry Networkに参加し、そのホームページを運用した。

[研究懇談会]

研究懇談会活動を次のように行った。

1) 有機微量分析研究懇談会

委員会を2回。第78回有機微量分析研究懇談会シンポジウムを5月12日、13日、米沢市伝国の杜置賜文化ホールで開催。（計測自動制御学会・力学計測部会と共催、日本分析化学会東北支部、日本化学会、日本薬学会、山形大学工学部協賛）で、特別講演3件、口頭発表6件、ポスター発表23件、その他各委員会報告および技術研修会等を行った。講演会（第60年会9月15日、名古屋大学東山キャンパス、招待講演1件）、第1回マイクロ電子びん技術研修会（12月2日、理化学研究所）を開催したほか、会報13号を発行した。

2) ガスクロマトグラフィー研究懇談会

運営委員会を7回開催した。研究会開催数：7回（第311～317回、特別講演会、Separation Sciences 2011講演、JIMAコンファレンスの講習会開催、分析年会での講演会、関西地区研究会を含む）。又、第17回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会（8月3～5日麻布大学）を開催した。日中韓シンポジウム（済州島）の事務局を務めた。東京のみで開催していた研究会を関西で開催する仕組みを立ち上げた。

3) 高分子分析研究懇談会

開催数：6回（第356〔高分子分析研究懇談会設立50周年記念講演会〕回・357回～361回）。又、第42回・第43回高分子分析技術講習会（工学院大学新宿校舎）「第16回高分子分析討論会」を（10月26日～27日、工学院大学新宿校舎）で開催した。

4) X線分析研究懇談会

開催数：例会4回（第239～242回）。又、「X線分析の進歩」第42集をアグネ技術センターより出版したほか、第47回X線分析討論会（10月28～29日、九州大学箱崎キャンパス創立50周年記念講堂）を共催あるいは主催した。

5) 分析試薬研究懇談会

開催数：1回。第59年会において、分析試薬研究懇談会（9月14日、名古屋大学、講演2件）を開催し、第2回生涯分析談話会講演会の共催を行った。また、第7回ホスト・ゲスト化学シンポジウムの共催を行った。さらに、「分析化学」誌に「分析試薬の新展開」と題した特集号を企画した（2011年3号予定）。

6) 溶液界面研究懇談会

開催数：1回。名古屋大学で開催された第60年会の「界面・微粒子」セッションの中で、2件の講演（9月14日）を行った。また、分析化学会年会における界面に関する

セッションの維持を図った。研究懇談会の活動に関するメール審議を行い、次年度の懇談会運営体制を決定した。

7) 液体クロマトグラフィー研究懇談会

開催数：11回（第237～248回）。又、第11回特別講演会・見学会（11月11日、オルガノ開発センター）、第16回LCテクノプラザ（5月12～13日、北とびあ）、LC-DAYs 2011（12月1～2日、ラフォーレ琵琶湖）、運営委員会総会I（8月8～9日、本会会議室）、運営委員会総会II（1月12～13日、サンライズ蓼科）、運営委員会総会III（2月28～29日、本会会議室）を開催した。このほか、関東支部主催第52回機器分析講習会の第2コース「高速液体クロマトグラフィーの基礎と実践」、及びJAIMAコンファレンスHPLC講習会（9月9日、幕張メッセ）を担当し、Separation Sciences 2011（9月6～7日、幕張メッセ）を共催した。

8) 化学センサー研究懇談会

研究懇談会講演会（9月16日、日本分析化学会第60年会、名古屋大学にて講演2件）を開催した。また、ICAS2011にて、センサーのシンポジウムを行った。

9) 電気泳動分析研究懇談会

懇談会講演会を1回（9月年会時、東京）開催したほか、第31回キャピラリー電気泳動シンポジウム（11月、鶴岡）を開催した。また本研究懇談会編の「キャピラリー電気泳動」の出版計画を進めた。

10) イオンクロマトグラフィー研究懇談会

Separation Science 2011（9月6～7日、幕張）、イオンクロマトグラフィー講演会（9月14日、分析化学会第60年会と共催、名古屋大学）、中日韓分析化学シンポジウム（10月31日～11月2日、GC、HPLC、FIA各研究懇談会と共催、韓国・済州島）、The 5th Asia-Pacific Symposium on Ion Analysis（第5回アジア太平洋イオン分析シンポジウム（第28回イオンクロマトグラフィー討論会））（11月3日～6日、中国・桂林）を開催し、運営委員会を計2回開催（5月・9月）した。またイオンクロマトグラフィー分析士認証試験実施に向け試験問題を作成し、「分析化学教育用ビデオ」の内容改訂（DVD化）の取り組みを進めた。

11) フローインジェクション分析研究懇談会

講演会を4回（17th ICFA 2011（7月3～8日、ポーランド）、Separation Sciences 2011（9月6・7日、幕張メッセ）、年会開催時（9月14日、名古屋大）、Mini-Symposium on FIA with Prof. Gary D. Christian・第49回FIA講演会（12月2・3日、愛知工大）、講習会を1回（JAIMAセミナーVII「これであなかも専門家FIA編」、9月9日、幕張メッセ）開催したほか、Journal of Flow Injection Analysis誌の発行（28巻）のための編集委員会を1回（12月1日、名古屋）、また褒賞委員会を1回（9月14日、名古屋大）開催した。

12) 環境分析研究懇談会

講演会を2回（第18回を9月14日第60年会において、第19回を11月17日日本女子大学開催において）、運営委員会を1回開催した。メーリングリストにおいて関連情報を会員各位に適宜提供した。また、2010 CJK Symposium on Environmental Analytical Chemistry（済州島、韓国）（11月1、2日）の日本側懇談会メンバーに参加した。

13) 表示・起源分析技術研究懇談会

講演会を2回（7月16日東京工業大学、11月17日農林ホール）を開催した。9月24日第58年会にて講演会を開催した。運営委員会を2回開催した。

14) レアメタル分析研究懇談会

講演会並びに運営委員会を9月14日、第59年会会場（名古屋大学）で開催した。

15) 熱分析研究懇談会

講演会を2回（第1回を9月14日に第60年会において、第2回講演会を2月24日に日本鉄鋼協会評価・分析・解析部会との合同講演会として東北大学において）開催した。また第21回日本MRS学術シンポジウムセッションUに協力した。

16) 溶液反応化学研究懇談会

設立の準備を行い、理事会において設立の承認を受けた。

【支部】

支部活動を次のように行った。

【北海道支部】

1. 役員の選任

支 部 長 大澤 雅俊
副支部長 森田みゆき (次期支部長) 黒澤 隆夫
参 与 菅浦 明 石井 博美 大下 敏夫
小澤 幸男 鍵政 秀一 片山 則昭 上館 民夫
黒田 一寛 佐々木陽一 多賀 光彦 藤間 貞彦
富田 勤 長井 忠則 中野 益男 那須 淑子
西口 信弘 乗木新一郎 長谷部 清 松永 勝彦
松久 喜一 三浦 敏明 横澤 龍朗 吉田 仁志
監 査 嶋津 克明 伊藤八十男
庶務幹事 平間 祐志 叶 深
会計幹事 鈴木 智宏 石田 晃彦
幹 事 池田 俊朗 石坂 昌司 板橋 豊
伊藤 純一 伊藤 慎二 上野 貢生 宇都 正幸
大津 直史 蠣崎 悌司 片岡 正光 加藤 昌子
河崎 孝男 菅 正彦 喜多村 昇 工藤 英博
久万 健志 蔵崎 正明 齋藤 健 坂入 正敏
佐々木胤則 佐藤 正知 佐藤千鶴子 神 和夫
高木 英利 高橋 徹 高橋 英明 田中 俊逸
田邊 博義 谷 博文 田原るり子 千葉 真弘
坪井 泰之 敦賀 昇 富田 恵一 豊田 和弘
中田 耕 中谷 暢夫 永洞真一郎 中村 博
西村 一彦 古月 文志 福嶋 正巳 藤井 清志
藤吉 亮子 古崎 睦 松井 宏之 南 尚嗣
諸角 達也 山田 幸司 吉田 登 吉村 昭毅

2. 研究発表会

- 1) 夏季研究発表会 (共催): 7月23日, 室蘭工業大学で開催, 一般講演144件, 特別講演2件, 懇親会を行った (参加者238名)。
- 2) 化学教育研究協議会 (共催): 10月29日, 北海道大学大学院環境科学研究院で開催, 講演1件, 分析化学若手教育研究者による話題提供, 自由討論, 懇親会を行った (参加者50名)。
- 3) 冬季研究発表会 (共催): 1月31~2月1日, 北海道大学学術交流会館で開催, 研究発表184件, 特別講演1件, 懇親会を行った (参加者65名)。

3. セミナー

- 1) 第27回分析化学緑陰セミナー: 7月2・3日, ビューサイドホテル雪の屋 (旭川市) にて開催, 講演5件, ポスター講演13件, 懇親会を行った (参加者61名)。
- 2) 特別公開シンポジウム (公開セミナー): 11月11日, 北海道大学水産学部で開催, 講演2件 (参加者100名)。
- 3) 第47回氷雪セミナー: 1月7・8日, かんぼの宿小樽で開催, 講演4件, 懇親会を行った (参加者30名)。

【東北支部】

1. 役員の選任

支 部 長 尾形 健明
副支部長 大江 知行 糠塚いそし
参 与 秋葉 健一 阿部 重喜 石井 一
石田 良栄 宇野原信行 大関 邦夫 大類 洋
荻野 博 長 哲郎 小田嶋次勝 後藤 順一
佐藤 允美 鈴木 信男 南原 利夫 広川吉之助
目黒 照 山崎 慎一 四ツ柳隆夫
監 事 安斉 順一 福島美智子
庶務幹事 後藤 貴章
会計幹事 平野 愛弓
在仙常任幹事 赤坂 和昭 芦野 哲也 壹岐 伸彦
井上 亮 井原 忠雄 兼子 孝徳 猿渡 英之
鶴岡 博章 中尾 雅彦 西澤 精一 橋本 幹雄
星 友典 山下 幸和 和久井喜人
地区常任幹事 岩田 吉弘 遠藤 昌敏 押手 茂克
菊池 洋一 佐藤 健二 高貝 慶隆 照井 教文
中村 重人 平山 和雄 藤原 一彦 細野 長悦
水口 仁志 渡辺 忠一

幹 事 伊藤 徹二 小川 信明 上條 利夫
彼谷 邦光 北爪 英一 久保 拓也 齋藤 紘一
佐藤 雄介 珠久 仁 鈴木 敏重 玉木 洋一
寺前 紀夫 西澤 松彦 福村 裕史 星野 仁
末永 智一 松永 英之 眞野 成康 村本 光二
我妻 和明

2. 研究発表会

- 1) みちのく分析科学シンポジウム2011 (主催): 7月23日, 山形大学工学部で開催, 依頼講演2件, ポスター講演38件を行い, 77名の参加があった。
- 2) 平成23年度化学系学協会東北大会 (共催): 9月17~18日, 東北大学川内キャンパスで開催。環境と分析化学のセッションにて「第7回環境と分析化学のセミナー」を開催した。
3. セミナー
 - 1) 分離機能とセンシング機能の化学セミナー2011 (主催): 3月19日 (土), 震災の影響により中止した。
 - 2) 第28回無機・分析コロキウム (共催): 6月10~11日, 東北大学川渡共同セミナーセンターにて開催, 招待講演3件, 依頼講演7件を行い, 約100名の参加があった。
 - 3) 第6回環境と分析化学のセミナー (主催): 9月18日, 東北大学川内キャンパスにて開催し, 招待講演2件, 依頼講演1件を行った。
 - 4) 分析化学と化学分析の青森フォーラム2011 (主催): 11月1日, 弘前大学理工学部にて開催, 招待講演3件を行い, 41名の参加があった。
 - 5) 第12回機能構造と分析化学シンポジウム (主催): 11月19日, 東北大学理学部にて開催, 招待講演6件を行った。
 - 6) 第13回機能構造と分析化学シンポジウム (主催): 2月18日, 東北大学理学部にて開催, 招待講演4件を行った。

【関東支部】

1. 役員の選任

支 部 長 角田 欣一
副支部長 前田 瑞夫 (次期支部長) 岡田 哲男
鈴木 康志
参 与 赤岩 英夫 今枝 一男 梅澤 喜夫
小熊 幸一 大橋弘三郎 楠 文代 合志 陽一
酒井 馨 澤田 清 渋川 雅美 菅原 正雄
杉谷 嘉則 高田 芳矩 高村喜代子 田中 龍彦
中澤 裕之 中村 洋 二瓶 好正 平井 昭司
不破敬一郎 藤原 鎮男 藤原祺多夫 保母 敏行
矢野 良子 山崎 素直 山根 兵 綿拔 邦彦
監 事 野呂 純二 本田 俊哉
常任幹事 朝本 紘充 荒井 健介 伊藤 里恵
岩佐 真行 植田 郁生 梅香 明子 江川千佳司
江坂 文孝 沖野 晃俊 金橋 康二 亀田 直弘
佐藤 守俊 敷野 修 清水 克敏 鈴木 康弘
谷合 哲行 津越 敬寿 友田浩一朗 豊田 太郎
中嶋 秀 永山 敏廣 西垣 敦子 松崎 彩子
高坂 正博 林 英男 柳田 顕郎 渡辺 幸久
支部幹事 大石 昌弘 小沢 洋 小谷 明
鹿籠 康行 中西 淳 野本 知理 橋本 剛
安田 純子 山口 央 吉田 達成 吉本敬太郎

2. 研究発表会

第25回新潟地区部会研究発表会: 9月10日, 新潟大学駅南キャンパスときめいとで開催, 特別講演2件, 一般講演6件, 情報交換会を行った。

3. 講習会

- 1) 第52回機器分析講習会: 第1コース, 10月27~28日, 第2コース, 7月6~8日, 第3コース, 11月18日, エスアイアイ・ナノテクノロジー, 東京海洋大学, 島津製作所で開催した。
- 2) 第18・19回環境分析基礎講座: 1月18~20日, 東京理科大学, 2月2~3日, パーキンエルマージャパンで各々開催した。

4. 講演会
 1) 第8回茨城地区分析技術交流会：12月2日、茨城大学水戸キャンパス理学部K棟インタビュースタジオテクノ交流会館で開催、特別講演3件及びポスターセッションを行った。
5. セミナー
 1) 平成23年度分析化学会関東支部若手交流会：10月7日～10月8日、日大館山セミナーハウスで開催した。
 2) 新世紀賞講演会・新年交流会：1月10日、秋葉原ダイビル18階(株)日立製作所において開催。
6. 各県分析化学交流会
 1) 山梨県分析化学交流会：10月28日、(株)リガク山梨工場にて開催。
 2) 第5回千葉県分析化学交流会：7月29日、エスアイアイ・ナノテクノロジー(株)において開催。
 3) 第6回千葉県分析化学交流会：11月15日、日産化学工業(株)物質科学研究所において開催。
 4) 第7回千葉県分析化学交流会：1月28日、日本大学薬学部において開催。
7. 支部ニュースの発行
 関東支部ニュース第22号を発行した。

【中部支部】

1. 役員を選任

支 部 長	北川 邦行				
次期支部長	樋上 照男				
副支部長	大谷 肇	井村 久則			
顧 問	石井 大道	坂谷 芳京	河口 廣司		
	木羽 敏泰	小辻 奎也	佐々木与志実	鈴木 正巳	
	田中 元治	柘植 新	寺田喜久雄	本浄 高治	
	野村 俊明	野村 昇	村田 旭	山寺 秀雄	
	三輪 智夫				
参 与	上田 一正	上田 穰一	太田 清久		
	酒井 忠雄	田口 茂	永長 幸雄	中村 俊夫	
	原 稔	平出 正孝	舟橋 重信	山田 真吉	
	山田 碩道				
監 事	藤本 忠蔵	宇野 文二			
庶務幹事	金子 聡				
会計幹事	石田 康行				
常任幹事	梅村 知也	片野 肇	加藤 亮		
	熊澤 茂則	巽 広輔	田中 啓之	柘植 明	
	遠田 浩司	鳥羽 陽	リムリーウ		
幹 事	飯國 良規	一ノ木 進	江坂 幸宏		
	太田 一徳	大橋 芳明	小澤 秀明	小谷 明	
	香川 信之	勝又 英之	金子美智代	儀賀 義勝	
	北出 和久	倉光 英樹	栗原 誠	小玉 修嗣	
	小松 優	小森 康生	齋藤 徹	篠原 直行	
	妹尾 健吾	高木 秀夫	高橋 透	高山 勝己	
	竹内 豊英	田中 智一	手嶋 紀雄	中園 秀己	
	西川 治光	丹羽 啓誌	肥田 宗政	深谷 秀貴	
	古米 一博	細川 智司	森田 成昭	元森 涉	
	柳沢 雅明	山形 茂	湯地 昭夫		

2. 研究発表会

- 1) 第42回中部化学関係学協会支部連合秋季大会：11月5～6日、信州大学工学部で開催、特別討論会講演6件(招待講演2件、依頼講演4件)、一般講演19件を行った(参加者：約50名)。

3. 講演会

- 1) 北陸地区講演会：6月24日、金沢大学角間キャンパスで開催、講演3件を行った(参加者91名)。
 2) 静岡地区講演会：11月14日、静岡県立大学小講堂で開催、講演3件を行った(参加者132名)。
 3) 愛知地区講演会：12月11日、名古屋大学IB電子情報館で開催、講演5件を行った(参加者111名)。
 4) 訪日学者講演会：6月2日、愛知工業大学総合技術研究所で開催、講演1件を行った(参加者20名)。
 5) 訪日学者講演会：12月5日、岐阜大学で開催、講演1件を行った(参加者25名)。

4. 講習会

- 1) 第21回基礎及び最新の分析化学講習会：10月6～7

日、愛知工業大学で開催、講義8件と実演・実習6件を行った(参加者82名)。

5. セミナー

- 1) 第30回分析化学中部夏期セミナー：8月31日～9月1日、三重大学三翠ホール、プラザ洞津で開催、招待講演4件、新製品紹介講演5件、ポスター発表39件を行った(参加者92名)。
 2) 「分析中部・ゆめ21」若手交流会・第11回高山フォーラム：11月11～12日、高山市図書館、お宿「山久」で開催、討論、ポスター発表58件を行った(参加者71名)。

【近畿支部】

1. 役員を選任

支 部 長	萩中 淳				
次期支部長	藤田 芳一				
前支部長	荒川 隆一				
副支部長	加納 健司	前田 耕治			
監 事	尾崎 幸洋	澁谷 康彦			
庶務幹事	辻 幸一	前田 初男			
会計幹事	井上 則子	岡本 昌彦			
参 与	池田 重良	池田 篤治	池田 昌彦		
	市村 彰男	宇野 豊三	大井 尚文	岡 正太郎	
	小川禎一郎	木原 壯林	木村 優	日下 讓	
	小島 次雄	佐伯 正夫	佐藤 昌憲	庄野 利之	
	千田 貢	滝山 一善	田中 信男	田中 久	
	田中 稔	千熊 正彦	辻 治雄	寺部 茂	
	中川 照真	中原 武利	原 正	藤永永太郎	
	藤原 英明	穂積啓一郎	堀 智孝	増田 嘉孝	
	松井 正和	松下 隆之	八尾 俊男	渡辺 巖	
	渡會 仁				
常任幹事	宇田 亮子	川崎 英也	岸本 芳久		
	北出 達也	椎木 弘	末吉 健志	鈴木 崇彦	
	鈴木 茂生	諏訪 雅頼	竹田さほり	茶山 健二	
	壺井 基裕	永井 秀典	西 直哉	堀田 弘樹	
	前田 拓巳	安川 智之			
幹 事	小豆畑利夫	足立 吟也	池川 繁男		
	石井 裕子	石田 全登	石濱 泰	今北 毅	
	岩月 聡史	岩本 仁志	上田 啓太	上原 章寛	
	内原 博	鶴藤 雅裕	梅谷 重夫	越後谷みどり	
	大石 晴樹	大内 幹雄	大塚 利行	大塚 浩二	
	岡林 義人	尾関 徹	小堤 和彦	小山 宗孝	
	垣内 隆	糟野 潤	柄谷 肇	河合 潤	
	河田 聡	河野 宏彰	菊地 和也	喜多 純一	
	木村 恵一	紀本 岳志	久保 登公二	熊谷 哲	
	栗山 尚浩	黒田 義弘	小池 亮	小畑 俊嗣	
	小林 典裕	齊藤 恵逸	才原 康弘	坂本 英文	
	佐々木隆之	下山 昌彦	白井 理	白石 晴樹	
	杉原 崇康	杉山 雅人	杉山 裕子	須志田一義	
	宗林 由樹	高川 悌二	高木 達也	高橋 弘樹	
	谷口 一雄	民谷 栄一	塚越 一彦	塚原 敬一	
	塚原 聡	都築 英明	角井 伸次	津村ゆかり	
	寺田 靖子	土井 光暢	土江 秀和	遠山 恵夫	
	床波 志保	中井 亨	長岡 勉	中口 讓	
	中島 久子	中西 和樹	中原 佳夫	中林 安雄	
	中山 茂吉	西野 智昭	西埜 誠	野崎 敏則	
	野村 聡	則末 和宏	長谷川 誠	濱地 格	
	張野 宏也	東 昇	久本 秀明	福土 恵一	
	藤居 義和	藤嶽 暢英	藤森 啓一	藤原 学	
	細矢 憲	町田 佳男	松尾 修司	松田十四夫	
	松村 竹子	丸尾 雅啓	三木功次郎	水谷 文雄	
	溝奥 康夫	三田村邦子	三戸彩絵子	向井 浩	
	村井 重夫	村上 正裕	村松 康司	森内 隆代	
	森田 尚文	守安 正恭	矢坂 裕太	矢嶋 摂子	
	山内 雄二	山垣 亮	山口 敬子	山田 悦	
	山田 隆	山田 秀和	山田 裕之	山本 雅博	
	弓削 是貴	横井 邦彦	吉田 裕美	脇田 慎一	

2. 講演会

- 1) 近畿分析技術研究懇話会第14回講演会(共催)：3月11日、大阪科学技術センターで開催、講演2件を行っ

た。

- 2) 第1回支部講演会：4月8日，大阪科学技術センターで開催，講演2件を行った。
 - 3) 第31回石橋雅義先生記念講演会(共催)：4月23日，京都大学百周年時計台記念館で開催，講演2件を行った。
 - 4) 第2回支部講演会：12月9日，大阪科学技術センターで開催，講演2件を行った。
 - 5) 第7回近畿分析技術研究奨励賞受賞講演会(共催)：1月13日，大阪科学技術センターで開催，講演2件を行った。
3. 講習会
- 1) 第1回基礎分析化学講習会：6月7日，(株)島津製作所で開催，講義，見学を行った(受講者15名)。
 - 2) 第58回機器による分析化学講習会：7月21，22日，京都大学吉田キャンパスで開催，実習7件，共通講義1件を行った(受講者53名)。
 - 3) 第2回基礎分析化学実習：10月20日，紀本電子工業(株)で開催，講義，実習を行った(受講者9名)。
 - 4) 第3回基礎分析化学実習：12月16日，奈良教育大学で開催，講義，実習を行った(受講者12名)。
4. セミナー
- 1) 第1回提案公募型セミナー：11月11日，大阪市立大学文化交流センターで開催，講演6件を行った(受講者62名)。
 - 2) 第2回提案公募型セミナー：1月26日，けいはんなプラザで開催，講演4件，討論を行った(受講者48名)。
 - 3) 第5回平成夏期セミナー：8月8，9日，箕面市立青少年教学の森野外活動センターで開催，講演4件，ポスターセッション，パネルディスカッションを行った(参加者82名)。
5. 支部ニュースを3回発行した

【中国四国支部】

1. 役員を選任

支部長	升島 努
次期支部長・事務局長	藤原 照文
副支部長	徳永 裕司 北條 正司
支部参与	池田 早苗 今井 嘉彦 岩知道 正 大島 光子 小倉興太郎 木ト 光夫 木曾 義之 熊丸 尚宏 下村 滋 出口 正一 林 康久 平田 静子 真鍋 敬 宮田 晴夫 本仲 純子 本水 昌二 森田 秀芳 山崎 恒博
支部監事	竹味 弘勝 藤原 薫
庶務幹事	岡本 泰明 友野 和哲 水野 初 山下 浩
会計幹事	伊藤 一明 竹田 一彦
常任幹事	石井 孝浩 泉 雅典 今井 昭二 大中道俊亮 奥村 稔 春日 弘夫 勝 孝 北出 哲朗 島田 健 善木 道雄 大衆 正則 田頭 昭二 高柳 俊夫 武居 尚英 田中 一彦 田中 俊行 田中 秀治 中山 雅晴 名郷 洋信 廣川 健 升田 貞和 森谷 好光 山岡 和則 吉屋 晴夫 若林 茂夫 和田 修治
支部幹事	浅野 比 朝日 剛 受田 浩之 尾上 晃一 川口 浩 片岡 洋行 金田 隆 紙谷 浩之 佐竹 弘 実松 太 島崎 洋次 清 悦雄 清家 泰 谷村 俊史 千葉 潔 常定 健 鶴田 泰人 永阪 文惣 中田 健一 長野 博紀 西 博行 西本 潤 服部喜久男 早川慎二郎 樋口 徹憲 樋口 浩一 藤原 勇 前田 道男 村上 良子 門木 秀幸 藪谷 智規 山崎 重雄 吉岡 哲 吉本 誠 横田 宣夫 横山 崇

2. 研究発表会

- 1) プラズマ分光分析研究会第83回講演会(共催)：10月14日，広島県立産業交流センター(広島市)で開催，講演6件を行った。(参加者53名)。
- 2) 2011年日本化学会西日本大会(共催)：11月12・13日，徳島大学工学部(徳島市)にて開催，特別講演4

件，一般講演約390件を行った。(参加者約500名)。

3. 講演会

- 1) 中国四国支部分析化学講演会：3月2日，ピュアリティまきび(岡山市)で開催，講演3件および情報交換会を行った(参加者30名)。
- 2) 周南地区講演会(周南地区コンビナート分析研究会と共催)：12月2日，JR徳山駅ビル(周南市)で開催，講演3件および情報交換会を行った(参加者60名)。
- 3) 高知地区講演会(高知地区分析技術懇談会と共催)：12月10日，高知大学総合研究棟2F会議室1で開催，講演2件および情報交換会を行った(参加者約40名)。
- 4) 徳島地区講演会(徳島地区分析技術研究会と共催)：1月20日，徳島大学薬学部で開催。講演2件，研究発表3件を行った(参加者59名)。
- 5) 宇部地区講演会：2012年1月25日，山口大学工学部で開催，講演3件を行った。(参加者36名)。
- 6) 広島地区講演会(広島地区分析技術研究会と共催)：2012年2月28日，広島大学学生会館レセプションホールで開催，一般講演3件，研究発表7件および懇親会を行った。(参加者44名)。
- 7) 岡山地区講演会(岡山地区分析技術懇談会と共催)：2011年3月6日，岡山大学理学部11講義室で開催，講演1件，研究紹介11件および懇親会を行った。(参加者は37名)。
- 8) 鳥取地区講演会(鳥取総合分析研究懇談会と共催)：1月21日，講演3件を行った。(参加者62名)。
- 9) 島根地区講演会(島根環境分析化学・陸水化学懇談会と共催)：1月21日，島根大学総合理工学部で開催。講演2件および情報交換会を行った。(参加者26名)。

4. 講習会

第47回分析化学講習会：8月25・26日，山口大学常盤キャンパス(宇部市)で開催，「イノベーションツールとしての分析科学技術」の主題で，基調講演1件，特別講演2件，講義8件，実習9種類および懇親会を行った(参加者54名，テキスト購入のみ6名)。

5. セミナー

第17回中国四国支部分析化学若手セミナー：9月2日・3日，国立大洲青少年交流の家(愛媛県大洲市)において開催，招待講演1件，ショートプレゼンテーションおよびポスターセッション各19件，交流会を行った(参加者33名)。

【九州支部】

1. 役員を選任

支部長	片山 佳樹
次期支部長	甲斐 雅亮
副支部長	井原 敏博 池上 天
参与	飯盛喜代春 石黒 慎一 岩崎 正武 大賀 一也 大倉 洋甫 箴島 豊 鎌田 薩男 合屋周次郎 小林 宏 財津 潔 高木 誠 竹田津富次 田端 正明 出口 俊雄 増田 義人
監査	山口 敏男 柳 雅之
庶務幹事	村田 正治
会計幹事	森 健
常任幹事	安藤 功 今任 稔彦 大浦 博樹 王子田彰夫 黒田 直敬 戸田 敬 富安 卓滋 野口 英行 原田 明 原田 雅章 馬場 由成
幹事	井上 高教 今坂藤太郎 伊与田憲雄 岩永 達人 内嶋 茂 内田 耕次 内海 英雄 梅林 泰宏 大木 章 大島 達也 大渡 啓介 大庭 義史 大森 保 岡上 吉広 影浦 光義 加藤 祐子 金田 隆 河済 博文 川原 正博 神崎 亮 喜納 兼勇 黒木 広明 栗崎 敏 古賀 実 呉 行正 境 幸夫 笹木 圭子 塩路 幸生 下田 満哉 城 昭典 宗 伸明 高瀬 孝雄 高館 明 高椋 利幸 田口 博幸 竹中 繁織 竹原 公 立木 武 田中 一平 谷口 功 土田 博 轟木 一義 中嶋 直敏 中島 俊男 永瀬 誠 中島憲一郎 中園 学 中野 幸二

中山 守雄 新留 康郎 能田 均 野口 英行
野間 誠司 浜瀬 健司 原口 浩一 肥後 盛秀
平尾 良光 平田 紀行 前田 明広 増田 寿伸
松井 利郎 松岡 信明 松田 直樹 松野 康二
松本 清 満尾 良弘 宮島 徹 屋形 直明
山口 政俊 山田 淳 吉塚 和治 安田みどり
山口 英敬 横山 拓史 横下 正彦 吉田 亨次
吉田 烈 吉田 秀幸 吉留 俊史 脇田 久伸
和田 光弘

2. 研究発表会

- 1) 第47回化学関連支部合同九州大会（共催）：7月9日、北九州国際会議場で開催（分析化学分野 ポスター発表53件）。優秀ポスター発表6件を「九州分析化学ポスター賞」として表彰。

3. 講演会

- 1) 第24回九州分析化学若手の会・春の講演会（主催）：5月28日、九州大学伊都キャンパスで開催（参加者86名）。
- 2) 九州支部講演会・見学会（主催）：11月17日～18日、九州大学薬学部並びに同仁化学研究所で開催（講演会参加者45名、見学会参加者20名）。
- 3) 高木誠先生追悼講演会（主催）：8月6日、九州大学馬出キャンパスで開催。
- 4) 第18回クロマトグラフィーシンポジウム（共催）：10月28日～29日、九州大学箱崎キャンパスにて開催。
- 5) 第47回X線分析討論会（共催）：10月28日～29日、九州大学箱崎キャンパスで開催。
- 6) 外国人講演会（講演者：Kim KWAN 教授）：5月27日、九州大学伊都キャンパスで開催。
- 7) 外国人講演会（講演者：謝 明發教授）：7月6日、九州大学伊都キャンパスで開催。

4. 講習会

- 1) 第52回分析化学講習会（主催）：8月3～5日、九州大学伊都キャンパスで開催。
- 2) 機器分析ワークショップ（主催）：5月24日、佐賀大学理工学部で開催（参加者19名）。5月25日、大分総合文化センターで開催（参加者26名）。

5. セミナー

- 1) 第27回九州分析化学若手の会・夏季セミナー（主催）：7月28日～29日、国民宿舎めかり山荘で開催（参加者139名）。

6. 支部ニュース

支部ニュース第23号（6月）及び第24号（2月）を発行。

平成24年度事業計画書

（平成24年3月1日～平成25年2月28日）

①通常総会の開催（定款第17条）

- 第1回（53回）通常総会を下記のとおり行う。
日時 平成24年4月13日（金）11時より
場所 五反田文化会館（東京都品川区西五反田1-32-2）
参加予定者数150人。

②会誌、研究報告及び資料の刊行（定款第5条(1)）

- 学会誌「ぶんせき」を下記のとおり発行する。
2012年第3号～2013年第2号 毎月1回、5日に発行（各号A4判、130ページ）。発行部数7400
- 和文論文誌「分析化学」を下記のとおり発行する。
第61巻第3号～第62巻第2号を毎月1回、5日に発行（各号A4判、72ページ）。発行部数2300
- 英文論文誌「Analytical Sciences」を下記のとおり発行する。
Vol. 28, No. 3～Vol. 29, No. 2を毎月1回、10日に発行（各号A4判、136ページ）。発行部数800
- 英文論文誌「X-ray Structure Analysis Online」を下記のとおり発行する。
Vol. 28, No. 3～Vol. 29, No. 2を毎月1回発行（webのみによる無料公開）。
- メールマガジンを発行する。

③講演会、講習会及び研究会の開催（定款第5条(2)）

各支部並びに懇談会が主催するものは別に記載する。

[研究発表会]

- 第72回分析化学討論会を行う。
日時 平成24年5月19日（土）・20日（日）
場所 鹿児島大学（鹿児島市郡元1-21-40）参加予定者数800、演題数500
- Separation Sciences 2012（安心安全と快適を支える分離と検出の科学）を行う。
日時 平成24年7月19日（木）・20日（金）
場所 北とびあ（東京都北区王子1-11-1）参加予定者数200、演題数100
- 第61年会を下記のとおり行う。
日時 平成24年9月19日（水）～21日（金）
場所 金沢大学（金沢市角間町）参加予定者数1300人
演題数800
[講習会] 参加予定者数：合計500名

予定テーマ

水中の微量金属成分分析技術セミナー
金属分析技術セミナー
ダイオキシン類分析技術セミナー
セラミックス原料・鉱石類分析技術セミナー
土壌分析技術セミナー
プラスチック中有害金属成分の化学分析技術セミナー
分析化学基礎セミナー
食品分析技術セミナー
分析化学における不確かさ研修プログラムセミナー
その他

④調査、研究及び建議（定款第5条(3)）

[JIS]

分析化学用語に係るJIS K 0213（電気化学部門）とJIS K 0216（環境部門）の改正を行う（平成24年度前期日本規格協会の公募による）。

[技能試験] 参加予定試験所数：合計800社

ISO/IEC17043に基づく分析試験所技能試験を行う。

予定テーマ

ダイオキシン類成分分析
プラスチック中有害金属成分の分析
食品成分の分析
トレーサビリティと不確かさの理解度を確認する分析
その他

[標準物質]

これまで開発してきた各種標準物質の社会への供給活動を継続して実施する。また、在庫切れ品の補給と必要な新規標準物質の開発を行い社会への供給活動を行う。

[関連団体との協力]

- 関連学協会並びに団体の講演会、講習会及び研究会の開催を共催又は協賛する。
 - 学術会議協力団体としての活動を行う。
 - グリーンサステイナブルケミストリーネットワークの活動に協力する。
 - 化学連合参加団体としての活動を行う。
 - 関連団体からの要請に基づき委員を派遣してJIS/ISOなどの各種規格の立案等に協力する。
- [教育用DVD]
- 現在頒布中の教育用ビデオを発展させたDVD教材の開発のために作業を行う。

⑤研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条(4)）

- 2012年度学会賞、学会功労賞、技術功績賞、奨励賞、有功賞、「分析化学」論文賞並びに先端分析技術賞を下記のとおり表彰する。
学会賞（3名以内）
学会功労賞（5名以内）
技術功績賞（3名以内）
奨励賞（5名以内）
有功賞（50名程度）

2011年「分析化学」論文賞(1名)

先端分析技術賞(3名以内)

- 他機関による表彰および研究助成に対して会員を候補者として推薦する。

⑥ 其他目的を達成するために必要な事業(定款第5条(5))

- 液体クロマトグラフィー分析士初段, 2段, 3段, 液体クロマトグラフィー-質量分析法分析士初段, 2段, イオンクロマトグラフィー分析士初段の認証を行う。
- アジアの分析化学者との連携をはかるために Asian Analytical Chemistry Network のホームページを運用する。
- 本会の活動並びに斯学術・技術の重要性をホームページ, 各種展示, 冊子の発行, 記者会見, 展示などを通じて広報する。
- 若手交流会の活動を次のとおり行う。
72回分析化学討論会(5月, 鹿児島大学)および第61年会(9月, 金沢大学)等において若手企画シンポジウム・若手ポスターセッションを開催する。また, 各支部若手の主催事業を支援する。
- 各研究懇談会の活動を次のとおり行う。
 - 1) 有機微量分析研究懇談会
委員会を2回, 第79回有機微量分析研究懇談会シンポジウム(計測自動制御学会・力学計測部会と共催, 日本分析化学会中国四国支部, 日本化学会, 日本薬学会協賛, 6月, 鳥取市(とりぎん文化会館), 講演会(第61年会会期中), および第2回マイクロ電子天びん技術研修会を開催するほか, 会報13号(2012年3月)を発行する。また本研究懇談会編の「役に立つ有機微量元素分析」その2の出版計画を進める。
 - 2) ガスクロマトグラフィー研究懇談会
例会を数回, 見学会, 特別講演会, 講習会(実習付)を開催する。例会の中で基礎講座講習を行う。地方での研究会活動を行う。セパレーションサイエンス2012に協力する。JIMAコンファレンスで講習会を実施する。日中韓シンポジウムを支援する。講習会用テキストを整備する。懇談会50年の過去ログをホームページで公開する。運営委員会を隔月で開催する。
 - 3) 高分子分析研究懇談会
例会を6回, 高分子分析技術講習会を2回, 第17回高分子分析討論会の開催。
 - 4) X線分析研究懇談会
例会を数回, 第48回X線分析討論会, X線分析講習会を開催するほか, 「X線分析の進歩」を出版する。
 - 5) 分析試薬研究懇談会
講演会2回(第61年会およびホスト・ゲスト化学シンポジウムでの招待講演)ほか懇談会1回を開催する。第8回ホスト・ゲスト化学シンポジウム(札幌, 5月)の共催を行う。
 - 6) 溶液界面研究懇談会
講演会, 懇談会を各1回(第61年会会期中)開催するほか, 通信による情報交換を行う。また, 年会において界面に関するセッションを継続して開催できるよう, 年会実行委員会への働きかけを行う。
 - 7) 液体クロマトグラフィー研究懇談会
運営委員会を11回, 例会を12回(うち1回は年会時に開催), 液体クロマトグラフィー特別講演会・見学会を2回, 第18回LCテクノプラザ, LC-DAYs 2012を開催する。Separation Sciences 2012を幹事研究懇談会として開催し, 関東支部機器分析講習会第2コース「高速液体クロマトグラフィーの基礎と実践」, JAIMAセミナーにおけるHPLC講習会などを支援する。2012年度に実施される分析士認証試験後, LC分析士3段試験解説書(8月), LC分析士2段試験解説書(9月), LC分析士初段試験解説書(10月), LC/MS分析士2段試験解説書(1月), LC/MS分析士初段試験解説書(2月)に対する5種の査読会を各々2日間ずつ実施する。
 - 8) 化学センサー研究懇談会
懇談会講演会(9月, 分析化学会年会会期中)を開催するほか, 化学センサー・バイオセンサー関連シンポジウムなどの案内や資料を配付する。

ウムなどの案内や資料を配付する。

- 9) 電気泳動分析研究懇談会
講演会を1回(分析化学会年会会期中)開催するほか, 第32回キャピラリー電気泳動シンポジウム(11月, 大阪)を開催する。またシンポジウムの要旨集アーカイブをホームページ上で公開するほか, 本研究懇談会編の「キャピラリー電気泳動」の出版計画を進める。
- 10) イオンクロマトグラフィー研究懇談会
The 6th Asia-Pacific Symposium on Ion Analysis(11月頃, インドネシア・ジャカルタ), イオンクロマトグラフィー講習会(9月, 東京コンファレンスと共催), セパレーションサイエンス2012(SS2012)(7月, 東京), イオンクロマトグラフィー講演会(9月, 分析化学会第61年会と共催, 金沢大学), 中日韓分析化学シンポジウム(11月, GC, HPLC, FIA各研究懇談会と共催, 会場未定)を開催する。この他, 運営委員会を3回開催する予定。また「分析化学教育用ビデオ」の内容改訂(DVD化)とIC分析士認定試験問題作成と試験の実施に取り組む。
- 11) フローインジェクション分析研究懇談会
委員会を1回, 「Journal of Flow Injection Analysis」(JFIA)誌編集委員会を2回, 講演会(7月・Separation Sciences 2012(北とびあ), 9月・第61年会会期中(金沢大), 9月・Flow Analysis XII(Thessaloniki, Greece), 11月・第50回フローインジェクション分析講演会(徳島大))を開催するほか, JFIA誌を2回(6月, 12月)発行する。
- 12) 環境分析研究懇談会
講演会を3回(6月, 第57年会会期中, 11月), 幹事会を1回開催する。CJKシンポジウム(中国)に参加する。また適宜メーリングリストを用いた情報交換を行う。
- 13) 表示・起源分析技術研究懇談会
講演会を3回(7月, 第61年会会期中, 10月か11月), 運営委員会を2回開催する。安定同位体比分析の空間試験を行う。
- 14) レアメタル分析研究懇談会
講演会を2回(6月及び第61年会中), 運営委員会1回(第61年会中)開催する。またメーリングリストを作成し, 適宜情報交換を行う。
- 15) 熱分析研究懇談会
講演会を2回(9月, 第61年会会期中及び12月)開催予定。またメーリングリストを活用し, 情報交換を行う。
- 16) 溶液反応化学研究懇談会
講演会を2回(第72回分析化学討論会・キックオフミーティングを兼ねる, および第61年会会期中), 懇談会を1回(第61年会会期中)開催する。メーリングリストを作成し, 適宜情報交換を行う。
 - 支部において定款第5条の事業を次のとおり行う。

【北海道支部】

1. 夏季研究発表会(7月), 冬季研究発表会(2月)
2. 化学教育研究協議会(11月上旬)
3. 第28回分析化学緑陰セミナー(7月), 公開セミナー(9月), 第48回氷雪セミナー(1月上旬)
4. 支部ニュースの発行(7月, 12月)

【東北支部】

1. 研究発表会: みちのく分析科学シンポジウム2012, 平成24年度化学系学協会東北大会
2. 講演会: 分析化学と化学分析の青森フォーラム2012(青森地区講演会), 各地区講演会
3. 分析化学基礎技術講習会2012
4. セミナー: 分離機能とセンシング機能の化学セミナー2012, 第8回環境と分析化学のセミナー「みちのくセミナー」, 第14回機能構造と分析化学シンポジウム, 平成24年日本分析化学会東北・関東支部若手交流会, 第29回無機・分析化学コロキウム

【関東支部】

1. 講習会: 第53回機器分析講習会, 環境分析基礎講座を開催する。

2. 講演会：新潟地区部会研究発表会，茨城地区分析技術交流会，新世紀賞講演会，新年交流会のほか，随時開催する。
3. セミナー：分析化学若手交流会のほか，随時開催する。
4. 支部ニュースの発行ほか常任幹事会で必要と認められた事項を行う。

【中部支部】

1. 研究発表会：第43回中部化学関係学協会支部連合秋季大会（11月，名古屋工業大学）を共催の予定。
2. 講演会：愛知・三重・福井での地区講演会，及び訪日研究者講演会の開催を予定。
3. 講習会：第22回基礎及び最新の分析化学講習会（10月，中部大学）を開催の予定。
4. セミナー：第31回分析化学中部夏期セミナー（8月，信州），「分析中部・ゆめ21」若手交流会・第12回高山フォーラム（11月，高山市図書館）を開催の予定。

【近畿支部】

1. 講演会：近畿分析技術研究懇話会第15回講演会（3月），支部講演会（4月，12月）を開催の予定。
2. 講習会：基礎分析化学講習会（随時），第59回機器による分析化学講習会（7月，甲南大学）を開催の予定。
3. セミナー：提案公募型事業（随時），基礎分析化学実習

（随時），第6回平成夏期セミナー「ぶんせき秘帖」（8月）を開催の予定。

4. 支部ニュースの発行（随時）

【中国四国支部】

1. 講演会：中国四国支部分析化学講演会（3月8日，広島），岡山・広島・周南・山口・愛媛・徳島・鳥取・島根・高知地区講演会，外国人学者講演会を随時開催の予定。
2. 講習会：第49回分析化学講習会（8月2日～3日，徳島）を開催の予定。
3. セミナー：第18回中国四国支部分析化学若手セミナー（7月または8月，山口）を開催の予定。

【九州支部】

1. 研究発表会：第49回化学関連支部合同九州大会（6月）を開催の予定。
2. 講演会：第25回春の研究講演会（5月），第30回夏季セミナー（7月），支部講演会・見学会（11月）のほか，機器分析ワークショップや外国人講演会を随時開催の予定。
3. 講習会：第53回分析化学講習会（8月）を開催の予定。
4. その他：地区懇話会，支部ニュースの発行などを行う予定。

以上

平成 23 年 度 会 計 報 告

貸 借 対 照 表

(平成 24 年 2 月 29 日現在)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産			
現金及び預金	60,761,426	71,012,713	△10,251,287
未収金	11,173,357	13,516,118	△2,342,761
未収会費	11,080,773	16,903,150	△5,822,377
未収収益	220,685	218,630	2,055
棚卸資産	25,531,597	25,620,493	△88,896
一年以内回収予定長期貸付金	199,920	199,920	0
前払金	4,404,944	3,889,945	514,999
仮払金	264,210	184,576	79,634
流動資産合計	113,636,912	131,545,545	△17,908,633
2. 固 定 資 産			
(1) 基 本 財 産			
定期預金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) 特 定 資 産			
退職給付引当資産	76,056,631	75,733,982	322,649
標準物質開発基金	64,946,842	67,251,103	△2,304,261
分析技術教育基金	12,906,812	13,721,586	△814,774
国際交流事業基金	24,020,498	14,932,959	9,087,539
分析化学研究奨励基金	8,366,548	8,362,229	4,319
預り保証金引当預金	11,000,000	11,000,000	0
支部研究懇談会特定預金	29,848,140	31,052,520	△1,204,380
特定資産合計	227,145,471	222,054,379	5,091,092
(3) そ の 他 の 固 定 資 産			
建物	17,008,408	17,805,724	△797,316
器具備品	651,029	719,230	△68,201
土地	49,172,915	49,172,915	0
商標	397,806	472,646	△74,840
ソフトウェア	3,080,773	6,736,452	△3,655,679
電話加入権	28,000	28,000	0
敷金	100,000	100,000	0
長期貸付金	3,127,320	3,327,240	△199,920
その他の固定資産合計	73,566,251	78,362,207	△4,795,956
固定資産合計	310,711,722	310,416,586	295,136
資 産 合 計	424,348,634	441,962,131	△17,613,497

貸借対照表

(平成24年2月29日現在)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	2,890,973	8,140,569	△5,249,596
未払費用	4,648,612	4,526,576	122,036
前受金	1,275,000	5,375,000	△4,100,000
前受会費	11,852,583	14,433,700	△2,581,117
前受購読料	889,993	1,676,788	△786,795
預り金	1,938,257	1,268,561	669,696
仮受金	301,855	289,665	12,190
流動負債合計	23,797,273	35,710,859	△11,913,586
2. 固定負債			
退職給付引当金	99,300,168	94,864,207	4,435,961
預り保証金	11,000,000	11,000,000	0
固定負債合計	110,300,168	105,864,207	4,435,961
負債合計	134,097,441	141,575,066	△7,477,625
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
国庫補助金	575,403	971,783	△396,380
寄付金	27,717,400	11,988,200	15,729,200
指定正味財産合計	28,292,803	12,959,983	15,332,820
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	0
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	261,958,390	287,427,082	△25,468,692
(うち特定資産への充当額)	(10,000,000)	(10,000,000)	0
(うち特定資産への充当額)	(140,088,840)	(135,320,397)	4,768,443
正味財産合計	290,251,193	300,387,065	△10,135,872
負債及び正味財産合計	424,348,634	441,962,131	△17,613,497

正味財産増減計算書

(平成23年3月1日～平成24年2月29日)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
一般正味財産増減の部			
I 経常増減の部			
1. 経常収益			
(1) 基本財産運用益	123,200	53,900	69,300
(2) 特定資産運用益	640,685	722,888	△82,203
(3) 受取入金	218,500	209,000	9,500
(4) 受取会費	95,828,938	98,009,996	△2,181,058
(5) 受取購読料	11,434,346	10,993,684	440,662
(6) 事業収益	184,717,755	171,696,986	13,020,769
(7) 受取補助金	14,710,380	9,276,817	5,433,563
(8) 雑収	3,286,784	1,730,411	1,656,373
経常収益計	311,060,588	292,693,682	18,366,906
2. 経常費用			
事業費	275,765,461	247,884,656	27,880,805
(1) 一般事業費	152,127,822	118,419,875	33,707,947
(2) 出版事業費	61,508,750	65,680,246	△4,171,496
(3) 受託等事業費	1,935,050	1,679,670	255,380
(4) 会議費	1,193,635	1,470,034	△276,399
(5) 人件費	59,000,204	60,634,831	△1,634,627
管理費	60,763,819	63,255,662	△2,491,843
(1) 人件費	21,834,200	21,133,416	700,784
(2) 会議費	13,229,464	14,878,566	△1,649,102
(3) 通信運搬費	2,159,056	2,079,288	79,768
(4) 印刷費	2,213,586	1,148,341	1,065,245
(5) 減価償却費	1,109,117	1,182,016	△72,899
(6) 商標権償却	74,840	74,840	0
(7) 備品・消耗品費	4,367,314	5,162,810	△795,496
(8) 旅費交通費	1,416,870	2,817,410	△1,400,540
(9) 共益補修費	1,676,400	1,707,144	△30,744
(10) 水道光熱費	372,859	368,958	3,901
(11) 事務所整備費	30,450	0	30,450
(12) 会計監査費	0	2,205,000	△2,205,000
(13) 職員表彰費	266,800	0	266,800
(14) HP維持製作費	1,471,461	1,224,904	246,557
(15) 会員管理費	1,538,269	715,468	822,801
(16) 支払負担金	2,750,599	3,003,926	△253,327
(17) 事務委託費	2,234,022	2,474,798	△240,776
(18) 租税公課	2,035,600	2,532,100	△496,500
(19) 雑費	1,982,912	546,677	1,436,235
経常費用計	336,529,280	311,140,318	25,388,962
当期経常増減額	△25,468,692	△18,446,636	△7,022,056
II 経常外増減の部			
1. 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
2. 経常外費用			
(1) 固定資産廃棄損	0	34,500	△34,500
経常外費用計	0	34,500	△34,500
当期経常外増減額	0	△34,500	34,500
当期一般正味財産増減額	△25,468,692	△18,481,136	△6,987,556
一般正味財産期首残高	287,427,082	305,908,218	△18,481,136
一般正味財産期末残高	261,958,390	287,427,082	△25,468,692
指定正味財産増減の部			
(1) 受取補助金	9,300,000	7,600,000	1,700,000
(2) 受取寄付金	15,729,200	11,988,200	3,741,000
(3) 一般正味財産への振替額	9,696,380	6,628,217	3,068,163
当期指定正味残高増減額	15,332,820	12,959,983	2,372,837
指定正味残高期首残高	12,959,983	0	12,959,983
指定正味残高期末残高	28,292,803	12,959,983	15,332,820
正味財産期末残高	290,251,193	300,387,065	△10,135,872

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
償却原価法を採用している。
 - (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
商品の評価は先入先出法による原価法を採用している。
 - (3) 固定資産の減価償却方法
有形固定資産
建物…定額法を採用している。(ただし、平成10年3月以前に取得した建物については定率法を採用している。)
器具備品…定率法を採用している。
無形固定資産
ソフトウェア・商標権…定額法を採用している。
 - (4) 引当金の計上基準
退職給付引当金…職員への退職給与の支給に備えるため、退職金支給規程に基づき期末自己都合要支給額に相当する金額を計上している。
 - (5) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は税込み方式によっている。
2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高
基本財産及び特定資産の増減等の内訳は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基 本 財 産				
定 期 預 金	10,000,000	0	0	10,000,000
小 計	10,000,000	0	0	10,000,000
特 定 資 産				
退職給付引当資産	75,733,982	358,649	36,000	76,056,631
標準物質開発基金	67,251,103	510,425	2,814,686	64,946,842
分析技術教育基金	13,721,586	25,226	840,000	12,906,812
国際交流事業基金	14,932,959	10,087,539	1,000,000	24,020,498
分析化学研究奨励基金	8,362,229	2,658,509	2,654,190	8,366,548
預り保証金引当預金	11,000,000	0	0	11,000,000
支部研究懇談会特定預金	31,052,520	309,861	1,514,241	29,848,140
小 計	222,054,379	13,950,209	8,859,117	227,145,471
合 計	232,054,379	13,950,209	8,859,117	237,145,471

財務諸表に対する注記

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳
基本財産及び特定資産の財源等の内訳は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	10,000,000	—	(10,000,000)	—
小 計	10,000,000	—	(10,000,000)	—
特定資産				
退職給付引当資産	76,056,631	—	—	(76,056,631)
標準物質開発基金	64,946,842	—	(64,946,842)	—
分析技術教育基金	12,906,812	—	(12,906,812)	—
国際交流事業基金	24,020,498	—	(24,020,498)	—
分析化学研究奨励基金	8,366,548	—	(8,366,548)	—
預り保証金引当預金	11,000,000	—	—	(11,000,000)
支部研究懇談会特定預金	29,848,140	—	(29,848,140)	—
小 計	227,145,471	—	(140,088,840)	(87,056,631)
合 計	237,145,471	—	(150,088,840)	(87,056,631)

4. 担保に供している資産
該当なし
5. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物	62,107,932	45,099,524	17,008,408
器 具 備 品	6,147,413	5,496,384	651,029
合 計	68,255,345	50,595,908	17,659,437

6. 保証債務等の偶発債務
該当なし
7. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び時価との差額
満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び時価との差額は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	帳簿価額	時 価	時価との差額
第 88 回利付国庫債券 (5 年)	60,111,000	60,636,000	525,000
第 64 回利付国庫債券 (5 年)	30,122,186	30,129,000	6,814
合 計	90,233,186	90,765,000	531,814

8. 補助金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交 付 者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上 の記載区分
補 助 金						
国庫補助金	日本学術振興会	971,783	9,300,000	9,696,380	575,403	指定正味財産
民間補助金	日本分析機器工業会	0	900,000	900,000	0	
民間補助金	化学物質評価研究機構	0	450,000	450,000	0	
民間補助金	万博記念機構	0	3,100,000	3,100,000	0	
民間補助金	フロンティアラボ㈱	0	200,000	200,000	0	
寄 付 金					0	
寄 付 金	個 人 等	11,988,200	15,729,200	0	27,717,400	指定正味財産
合 計		12,959,983	29,679,200	14,346,380	28,292,803	

財務諸表に対する注記

9. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常収益への振替額	
補助事業執行による振替額	9,696,380
合 計	9,696,380

10. 税効果会計関係の注記

- (1) 繰延税金資産の発生 の主な原因別の内訳

(単位：円)

未 払 賞 与	125,713
退 職 給 付 引 当 金	3,275,137
繰 越 欠 損 金	26,736,932
繰 延 税 金 資 産 小 計	30,137,782
評 価 性 引 当 額	△30,137,782
繰 延 税 金 資 産 合 計	0

- (2) 法人税法上の非収益事業と収益事業の区分

(単位：円)

	非収益事業	収益事業	合 計
税引前当期利益一般正味財産増減額 (A)	△34,145,492	8,676,800	△25,468,692
寄付金損金算入限度額 (B)	0	0	0
小 計 (C)=(A)+(B)	△34,145,492	8,676,800	△25,468,692
法人税、住民税及び事業税 (D)	0	70,000	70,000
法人税等調整額 (E)	0	0	0
過年度法人税等調整額 (F)	0	0	0
当期一般正味財産増減額 (A)-(D)-(E)-(F)	△34,145,492	8,606,800	△25,538,692

- (3) 法人税法上の収益事業に係る法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目の内訳
法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率の差異については、税引前当期一般正味財産増減額がマイナスであるため記載しない。

11. 関連当事者との取引の内容

該当なし

12. 重要な後発事象

該当なし

財 産 目 録

(平成 24 年 2 月 29 日現在)

(単位：円)

科 目		金 額	
I 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産			
現金	現金手許有高	1,008,226	
普通預金	三井住友銀行五反田支店	2,604,151	
	三井住友銀行新宿通支店	371,283	
	三井住友銀行麴町支店	1,366,682	
	三井住友銀行京都支店	104	
	三井住友銀行八千代支店	9,004	
	みずほ銀行五反田支店	13,523,548	
	みずほ銀行名古屋支店	3,010,596	
	三菱東京 UFJ 銀行五反田支店	941,887	
	三菱東京 UFJ 銀行網島支店	271,180	
	三菱東京 UFJ 銀行平塚支店	32,402	
	りそな銀行御堂筋支店	3,352,625	
	りそな銀行五反田支店	11,935,588	
	北洋銀行本店営業部	1,989,599	
	七十七銀行大学病院前支店	2,961,200	
	広島銀行西条支店	1,789,403	
	東邦銀行福島医大病院支店	474,939	
	もみじ銀行西条支店	1,465,264	
	大垣共立銀行中川支店	839,893	
	武蔵野銀行みずほ台支店	1,156,950	
	群馬銀行桐生支店	1,237,779	
	徳島銀行助任支店	124,437	
郵便振替	ゆうちょ銀行東京貯金事務センター	3,863,757	
	ゆうちょ銀行名古屋貯金事務センター	1,150,400	
郵便貯金	広島大学内郵便局	91,476	
	三芳みよし台郵便局	766,703	
	元岡郵便局	1,343,355	
定期預金	広島銀行西条支店	1,300,000	
	りそな銀行五反田支店	1,273,643	
	りそな銀行御堂筋支店	505,352	
未収金	明報社ほか会誌広告料他	6,445,627	
売掛金	西進商事(株)ほか DVD 他	4,727,730	
未収会費	2011 年度会費未収分	11,080,773	
未収収益	大和証券未経過有価証券利息	220,685	
棚卸資産	標準物質、ビデオ、会誌	25,436,307	
貯蔵品	切手ほか	95,290	
	一年以内回収予定長期貸付金 職員住宅購入資金	199,920	
前払金	第 61 年会実行委員会他	4,404,944	
仮払金	労働保険料	264,210	
流 動 資 産 合 計			113,636,912
2. 固 定 資 産			
(1) 基 本 財 産			
定期預金	中央三井信託銀行本店営業部	10,000,000	
基 本 財 産 合 計		10,000,000	
(2) 特 定 資 産			
退職給付引当資産	大和証券五反田支店等	76,056,631	
標準物質開発基金	大和証券五反田支店等	64,946,842	
分析技術教育基金	三井住友銀行五反田支店	12,906,812	
国際交流事業基金	中央三井信託銀行等	24,020,498	
分析化学研究奨励基金	中央三井信託銀行本店営業部	8,366,548	
預り保証金引当預金	中央三井信託銀行本店営業部	11,000,000	
支部研究懇談会特定預金	七十七銀行大学病院前支店等	29,848,140	
特 定 資 産 合 計		227,145,471	

財 産 目 録

(平成 24 年 2 月 29 日現在)

(単位：円)

科 目		金 額	
(3) その他の固定資産			
建物	事務所	17,008,408	
器具備品	コンパックラック	9,410	
	303 号室エアコン	76,242	
	間仕切りアコーデオン	2,230	
	リコーリコピーボード	3,642	
	304 号室マルチエアコン	8,754	
	液晶プロジェクター ep elp730	36,279	
	308 号室エアコン	18,992	
	エプソン emp-745	13,208	
	304 号室エアコン	107,786	
	305 号室エアコン	171,486	
	マークシートリーダー	203,000	
土地		49,172,915	
商標権		397,806	
ソフトウェア		3,080,773	
電話加入権	7 回線	28,000	
敷金	近畿支部	100,000	
長期貸付金	職員、住宅購入資金	3,127,320	
その他の固定資産合計		73,566,251	
固定資産合計			310,711,722
資産合計			424,348,634
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	品川税務署他 消費税、社保料等	2,890,973	
未払費用	賞与引当繰入額	4,648,612	
前受金	次年度受講料	1,275,000	
前受会費	会費未経過分	11,852,583	
前受購読料	「分析化学」ほか購読料	889,993	
預り金	品川社会保険事務所ほか 2 月分法定福利費他	1,938,257	
仮受金		301,855	
流動負債合計			23,797,273
2. 固定負債			
	退職給付引当金	99,300,168	
	預り保証金 広告料受入保証金ほか	11,000,000	
固定負債合計			110,300,168
負債合計			134,097,441
正味財産			290,251,193

収 支 計 算 書
(平成23年3月1日～平成24年2月29日)

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
1. 基本財産運用収入	50,000	123,200	73,200	
2. 特定資産運用収入	965,000	556,889	△408,111	
3. 入会金収入	200,000	218,500	18,500	
4. 会費収入	98,855,000	95,828,938	△3,026,062	
5. 購読料収入	11,300,000	11,434,346	134,346	
6. 事業収入	157,497,000	184,717,755	27,220,755	
7. 補助金等収入	10,384,000	14,314,000	3,930,000	
8. 寄付金収入	1,000,000	15,729,200	14,729,200	ICAS
9. 雑収入	505,000	5,607,496	5,102,496	
10. 長期貸付金回収額	210,000	199,920	△10,080	
11. 他会計から繰入金収入	20,000,000	0	△20,000,000	
事業活動収入計	300,966,000	328,730,244	27,764,244	
2. 事業活動支出				
1. 事業費支出	222,032,000	267,921,272	45,889,272	
(1) 一般事業費支出	96,710,000	148,894,526	52,184,526	
(2) 出版事業費支出	63,802,000	60,764,221	△3,037,779	
(3) 受託事業費支出	1,500,000	1,935,050	435,050	
(4) 会議費支出	2,620,000	1,178,925	△1,441,075	
(5) 助成金支出	100,000	0	△100,000	
(6) 人件費	57,300,000	55,148,550	△2,151,450	
2. 管理費支出	64,035,000	58,996,450	△5,038,550	
(1) 人件費	20,610,000	21,249,893	639,893	
(2) 会議費	13,351,000	13,244,174	△106,826	
(3) 通信運搬費	2,693,000	2,160,906	△532,094	
(4) 印刷費	2,026,000	2,213,586	187,586	
(5) 備品・消耗品費	5,776,000	4,352,174	△1,423,826	
(6) 旅費交通費	1,807,000	1,416,870	△390,130	
(7) 共益補修費	1,700,000	1,676,400	△23,600	
(8) 水道光熱費	400,000	372,859	△27,141	
(9) 事務所整備費	100,000	30,450	△69,550	
(10) 会計監査費	2,415,000	0	△2,415,000	
(11) 職員表彰費	230,000	266,800	36,800	
(12) 職員研修費	30,000	0	△30,000	
(13) 会員管理費	2,600,000	1,538,269	△1,061,731	会費請求業務
(14) HP維持管理費	1,170,000	1,471,461	301,461	
(15) 負担金支出	2,840,000	2,750,074	△89,926	
(16) 事務委託費	2,289,000	2,474,022	185,022	
(17) 租税公課	2,000,000	2,035,600	35,600	消費税ほか
(18) 公益法人移行準備費	1,000,000	0	△1,000,000	
(19) 雑費	998,000	1,742,912	744,912	
事業活動支出計	286,067,000	326,917,722	40,850,722	
事業活動収支差額	14,899,000	1,812,522	△13,086,478	
投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
1. 特定資産取崩収入	5,855,000	6,204,927	349,927	
投資活動収入計	5,855,000	6,204,927	349,927	
2. 投資活動支出				
1. 特定資産取得支出	0	13,433,460	13,433,460	
2. 固定資産取得支出	1,000,000	490,140	△509,860	
投資活動支出計	1,000,000	13,923,600	12,923,600	
投資活動収支差額	4,855,000	△7,718,673	△12,573,673	
予備費支出	133,000	0	△133,000	
当期収支差額	19,621,000	△5,906,151	△25,527,151	
前期繰越収支差額	70,214,000	70,214,193	193	
次期繰越収支差額	89,835,000	64,308,042	△25,526,958	

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収金、未収会費、売掛金、未収収益、一年以内回収予定長期貸付金、前払金、仮払金、未払金、未払費用、前受金、前受会費、前受購読料、預り金及び仮受金を含めている。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	71,012,713	60,761,426
未収金等	24,804,813	17,526,400
売掛金	5,614,455	4,727,730
未収収益	218,630	220,685
一年以内回収予定長期貸付金	199,920	199,920
前払金	3,889,945	4,404,944
仮払金	184,576	264,210
合 計	105,925,052	88,105,315
未払金等	12,667,145	7,539,585
前受金等	21,485,488	14,017,576
預り金	1,268,561	1,938,257
仮受金	289,665	301,855
合 計	35,710,859	23,797,273
次期繰越収支差額	70,214,193	64,308,042

3. 科目間の流用及び予備費の使用について

- (1) 科目間の流用
該当なし
- (2) 予備費の使用
該当なし

平成 24 年 度 収 支 予 算 書

(平成 24 年 3 月 1 日～平成 25 年 2 月 28 日)

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
1. 基本財産運用収入	50,000	50,000	0	
2. 特定資産運用収入	900,000	965,000	△65,000	
3. 会費収入	95,090,000	98,855,000	△3,765,000	
4. 購読料収入	10,200,000	11,300,000	△1,100,000	
5. 入会金収入	200,000	200,000	0	
6. 事業収入	155,210,000	157,497,000	△2,287,000	
7. 補助金等収入	8,664,000	10,384,000	△1,720,000	
8. 寄付金収入	130,000	1,000,000	△870,000	
9. 雑収入	719,000	505,000	214,000	
10. 長期貸付金回収額	210,000	210,000	0	
11. 他会計から繰入金収入	0	20,000,000	△20,000,000	
事業活動収入計	271,373,000	300,966,000	△29,593,000	
2. 事業活動支出				
1. 事業費支出	215,039,000	222,032,000	△6,993,000	
(1) 一般事業費支出	93,170,000	96,710,000	△3,540,000	
(2) 出版事業費支出	61,119,000	63,802,000	△2,683,000	
(3) 受託事業費支出	1,500,000	1,500,000	0	
(4) 会議費支出	2,300,000	2,620,000	△320,000	
(5) 助成金支出	50,000	100,000	△50,000	
(6) ICAS関連準備費用	0	0	0	
(7) 人件費	56,900,000	57,300,000	△400,000	
2. 管理費支出	59,670,000	64,035,000	△4,365,000	
(1) 人件費	19,400,000	20,610,000	△1,210,000	
(2) 会議費	13,970,000	13,351,000	619,000	
(3) 通信運搬費	2,162,000	2,693,000	△531,000	
(4) 印刷費	1,671,000	2,026,000	△355,000	
(5) 備品・消耗品費	4,620,000	5,776,000	△1,156,000	
(6) 旅費交通費	1,907,000	1,807,000	100,000	
(7) 共益補修費	1,700,000	1,700,000	0	
(8) 水道光熱費	360,000	400,000	△40,000	
(9) 事務所整備費	100,000	100,000	0	
(10) 会計監査費	2,205,000	2,415,000	△210,000	
(11) 職員表彰費	750,000	230,000	520,000	
(12) 職員研修費	0	30,000	△30,000	
(13) 会員管理費	2,000,000	2,600,000	△600,000	
(14) HP作成費及び管理費	1,340,000	1,170,000	170,000	
(15) 負担金支出	2,510,000	2,840,000	△330,000	
(16) 事務委託費	1,669,000	2,289,000	△620,000	
(17) 租税公課	2,000,000	2,000,000	0	
(18) 公益法人申請準備費	100,000	1,000,000	△900,000	
(19) 雑費	1,206,000	998,000	208,000	
3. 他会計振替支出	1,000,000	0	1,000,000	
事業活動支出計	275,709,000	286,067,000	△10,358,000	
事業活動収支差額	△4,336,000	14,899,000	△19,235,000	
投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
1. 特定資産取崩収入	15,755,000	5,855,000	9,900,000	
投資活動収入計	15,755,000	5,855,000	9,900,000	
2. 投資活動支出				
1. 特定資産取得支出	300,000	0	300,000	
2. 固定資産取得支出	0	1,000,000	△1,000,000	
ソフトウェア購入支出	0	1,000,000	△1,000,000	
投資活動支出計	300,000	1,000,000	△700,000	
投資活動収支差額	15,455,000	4,855,000	10,600,000	
過年度受託収入修正額				
予備費支出	174,000	133,000	41,000	
当期収支差額	10,945,000	19,621,000	△8,676,000	
前期繰越収支差額	64,308,000	70,214,000	△5,906,000	
前期繰越収支差額修正額				
次期繰越収支差額	75,253,000	89,835,000	△14,582,000	